

甲賀二郎 あゝか じろう 小説家。明治二十六年十月五日滋賀縣生れ、昭和二十年一月十四日没（一八九二—一九四五）。舊姓井崎、本名春田能為。大正七年東京帝國大學工科大学應用化學科卒。染料會社技師を経て、九年農商務省臨時皇室研究所技師、傍ら小説を發表し、昭和二年作家專業となる。評論も多く、本格探偵小説推理派の立場から、藝術派の木々高太郎と論争。十七年日本文學報國會事務局總務部長、十九年日本少年國民文化協會事務局長。

著譯書 『創作探偵小説選集・第二輯』（一九一七年版）（合著・探偵趣味の會）平井太郎編、昭和二年一月一日春陽堂）、『甲賀二郎集』

（昭和四年十月二日改造社「日本探偵小説全集」）、『電話を掛ける女』（昭和五年九月十七日新潮社「長篇文庫」）、『妾なき怪盜』（昭和七年四月二日、再刊・十年六月）『日新潮社「新作探偵小説全集」、

十一年十月）『二十日「新潮文庫」）、『犯罪發明者・焦げの火聖書』（昭和八年六月十五日新潮社「新潮文庫」）、『珍談奇談集』（合著、昭和八年十一月十六日大日本雄辯會講談社「キング文庫」）、『犯罪・

探偵・人生』（昭和九年六月五日新小説社）、『幽霊犯人』（昭和九年十一月八日新潮社「新潮文庫」）、F・W・クロイツ作『英海峽の

怪奇』（譯、昭和十年十一月）『二十日電白書房「世界探偵傑作叢書」）、

『池水莊綺譚』（昭和十四年九月）『二十日新潮社「新潮文庫」）、『摺



火一山小屋隨筆集』（合著・高須茂編、昭和十七年

三月一日朋文堂）、『羅漢の酒器』（昭和十七年七

月八日兵庫・熊谷書房）、『雪原の謀略』（昭和十八

八年十月）『二十日大道書房）、『日本探偵小説傑作集・上』（合著・江

戸川亂歩編、昭和二十一年十一月、二十五日（読館書房）、可江戸川亂歩選論探偵小説集・上巻（合著・同、昭和二十二年七月二十日岩谷書店）等。